

# 定例教育委員会会議録

(平成30年4月5日開催)

岡谷市教育委員会

# 定 例 教 育 委 員 会

日 時 平成30年4月5日(木)  
午後3時  
場 所 市役所2階 202会議室  
署名委員 高木委員、藤森委員

## 【 次 第 】

- 自 己 紹 介
- 開 会
- 教 育 長 報 告
- 議 題

1. 平成30年度岡谷市教育委員会基本方針について【資料No.1】 (全課)
2. いじめ問題対策調査委員会委員の委嘱について【資料No.2】 (非公開) (教育総務課)
3. 岡谷市スポーツ推進委員の委嘱について【資料No.3】 (非公開) (スポーツ振興課)

## ○ 報 告

1. 平成30年度教育委員会事務局職員定期人事異動について【資料No.4】 (教育総務課)

## ○ そ の 他

- ・行事等について (各課)
- ・その他

【次回開催予定】 5月9日(水) 定例教育委員会 13時30分 6階 601会議室

## 出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、  
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子

## 事務局(説明員)

教育部長 吉澤 洋人、教育部教育担当参事 三村 靖夫、教育総務課長 帯川 豊博、  
教育総務課主任指導主事 竹内 良之、生涯学習課長 小池 秀昭、スポーツ振興課長 小河原 義友、  
教育総務課統括主幹 山田 勝由紀、教育総務課主幹 小口 明彦、教育総務課主査 保科 圭吾

## <会議録>

### ○開 会

岩本教育長： それでは、定例教育委員会を始めたいと思います。最初に今日は入学式がございました。小平委員さんから初告辞というお話がありましたけれども、天気にも恵まれて、私も岡谷南部中学校と上の原小学校に出席させていただきました。非常に良い入学式だったのかなあと感じております。今日は小学生が345名入学をいたしました。中学生が407名でございますが、それだけ子どもの数が減っているのかなあとというところもちょっと感じた訳です。合わせて752名の子ども達が、それぞれ小学校と中学校へ入学した訳ですけども、夢と希望を持って入学した子ども達が本当に充実した良い学校生活を送れるように、みんなで支援をしていきたいなあと感じております。

今日は、上の原小学校は、子ども達をステージの上に乗せて主役は新1年生ということで、入学式を行いました。非常に私は、見ていて新鮮な感覚を受けました。1年生も、一生懸命しっかり椅子に座って、前を向いて話を聞こうという姿勢があって、頼もしく思った訳ですけども、これからまた色々なことがあるかと思えます。教育委員会として出来ることは何でもやっていきたい、そんな風に思っているのです、よろしく願いいたします。

本日の署名委員は高木委員さんと藤森委員さんをお願いいたします。最初に私から教育長報告をさせていただきます。

### ○教育長報告

今日は、教育総務課と生涯学習課から報告をさせていただきます。

#### 1. 平成30年度予算執行方針会議について

教育部全体に関わることについてご報告いたします。

平成30年度のスタートにあたり、昨日4月4日（水）に、予算執行方針会議が開催され、今年度の予算執行にあたり、今井市長から訓示が、小口副市長から指示事項がありました。

今井市長からは、平成30年度は「新たな時代を紡ぐ年」と位置づけ、「市民誰もが安全で安心して、健康で生きがいを持って暮らすことができ、このまちに住み、働くことに誇りと自信、そして愛着を持てるまち」また、「将来にわたって持続可能で、将来のまちに多くの夢と希望を描けるまち」の実現に向け、第4次岡谷市総合計画の集大成となる年であること。さらに、第5次総合計画の計画期間である次の10年間へつないでいくための大変重要な年であり、常に見直しを行い、創意工夫をしながら、職員が思いを一つに努力して欲しいとの訓示がありました。

また、小口副市長からは、失敗を恐れずに、すべての取り組みにチャレンジすること、人口減少社会に対応するために、10年後の岡谷市のまちの姿に職員一人ひとりが夢と愛着を持って、議論することなどの指示事項がありました。

教育委員会としましても、平成30年度は、岡谷市教育大綱の見直しや第5次総合計画の策定に向けて、大変重要な年となってまいります。子ども達が将来の岡谷市に夢と希望が描けるように、市長部局と一丸となって策定に取り組んでまいりたいと考えておりますので、是非、教育委員の皆さんにもお知恵をお借りできたらと思っております。改めて1年間お世話になりますが、よろしく願いいたします。

次に生涯学習課関係でございます。

#### 2. 新年度を迎えた学童クラブの状況について

新年度を迎えた学童クラブの状況について報告させていただきます。

学童クラブは、年度末の春休みに続いて、入学式前まで全小学校で開設をいたしました。クラブによっては、入学式前の学校にも通っていない新1年生も一緒に、まだ環境に慣れないながらも、他の児童と一緒に、クラブ室で楽しそうに過ごす姿も見られました。

今年度、4月1日時点での学童クラブ利用登録児童数は666人と、若干前年度を下回っておりますが、全児童数のおよそ3割のご家庭が利用登録をされており、学童クラブのニーズは相変わらず高いと感じています。

また、発達障がいや特別支援を必要とする児童への対応などの課題もありますので、学校との連携を図りなが

ら丁寧に対応していきたいと考えております。

岩本教育長： 以上、私からの報告とさせていただきます。ご報告申し上げた点について、何かご質問、ご意見等ございましたらお願いをいたします。

よろしいでしょうか。それでは、本日の議事に移りたいと思います。

## ○議 題

### 1. 平成30年度岡谷市教育委員会基本方針について (全課)

岩本教育長： 議題1について事務局より説明をお願いします。

<事務局より平成30年度岡谷市教育委員会基本方針の内容について説明。>

岩本教育長： 今、事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

高木委員： 岡谷子ども未来塾について教えていただきたいんですが、昨年度末、私も講師の先生を紹介させていただいたんですが、学校で英語や数学を教えるけれども、教育総務課ではなくて生涯学習課が担当ということで、子ども未来塾の位置付けを教えていただきたいと思います。

事務局： まず、やる時間が放課後であるということ、それから講師の先生を地域の方々をお願いするというようなことで、学習支援ということではあるんですが、担当としては生涯学習課ということになります。

高木委員： 授業との関係はどうなるのでしょうか。

事務局： 今考えているのは、参加する生徒を先生方に選んでいただくようお願いしております。

推薦といますか、参加を促していただくような協力をお願いしていきたいかなあと考えております。

事務局： コンピューター室でやるというのは、学習ソフトが入ってまして、それが小学校から中学校までの全教科を網羅するもので、eラーニングとって自分達が問題等を解いて、自分のペースで出来るというところが良いものですから、英語と数学に限ってですけども、何処で自分が躓いているのかということが分かり、1年生の単元をやってもいいですし、もしかしたら小学校に遡った方がいいかもしれませんけれども、子どもの状況にもよると思いますが、授業と必ずリンクするかというと、そこは違うと思っておりますので、よろしくをお願いします。

太田委員： 今の子どもの未来塾の件ですけども、今のお話を伺うと個別にお子さんの状況に応じて希望者が手を挙げて参加をするという形式になってくるのでしょうか。

事務局： そうですね。

太田委員： そうすると、今のeラーニングのソフトの状況をお聞きすると、対象者本人にとっての目的が苦手教科の解消だとか、勉強習慣の習慣づけだとか、意欲の向上ということになると、出来れば、中学1年生からの方が良いのかなあと思うんですけど、中学2年生を対象にするのは何か理由とか根拠があるのでしょうか。

事務局： 中学1年生は、比較的夢中で過ごすという時期でして、段々学校生活に慣れてきて、2年生ぐらいになると心の迷いも出てきたりとか、勉強の遅れが生じやすい時期なのかなあというようにところで2年生を対象に考えております。

太田委員： 新規事業なので、やってみながら色々改善や工夫をしていくことになると思いますので、どの位の対象者が初年度でいいのかとか、皆さんがどんな循環になるのかということに応じて学年なんかも今後、臨機応変に発展していける状況にあればいいのかなあと思いますのでよろしくをお願いします。

岩本教育長： ちなみに4月にNRT、或いはCRTと呼ばれる標準検査というのがあります。これは全国的な規模で開発された数学と英語の検査なんですけども、それを中学2年生がやります。そうすると結果がフィードバックされて自分が苦手なところが数学と英語については見えてきます。それを基にしながら教科担任の先生と相談をして、それをやるかどうかを決めていただく。嬉しい悲鳴になればいいかなあと思っておりますけども、ちょっとまだ見えない部分があります。一応コンピュ

一ター室は20名近く利用出来る予定でおりますけども、ひょっとしてもっと増えるのかなあということもありますので、その場合にはどうしたらいいのかというところをまた、一緒になって考えていきたいなあと思っております。いずれにしても学校の先生方もやるということがいっぱいありますので、あえて学校とは一歩置いて、地域の皆さんのお力を借りて、そして、子ども達は自学自習出来るという体制があります。

また、そのeライブラリーが良いのは、家にパソコンがあれば、パスワードを入れると同じものが出来るんです。だから、もっと言うと長期欠席の子どもだとか、登校をしづっているような子どもでも、そこに入れば自分で勉強が出来るという良さがあって、それこそ小学校の低学年からの教科がありますので、非常に勉強しやすいし、自分のペースで出来るという良さがああります。学び方を学ぶ、学習習慣形成といった点でも有効な一つの手段かなあということでも理解をしております。また、実際に見ていただいて色々ご意見をいただけたらと思っております。

草間職務代理者： 昨年、竹内先生と小林先生が継続してスタンダードカリキュラムの中で神明小学校と岡谷田中小学校でロボットのプログラミングの授業をされておりましたが、これが新規事業の「ふるさと岡谷に学ぶ学習の推進事業」の中に組み込まれていると思うんですけども、今後、他の小学校でも広げていく計画はこの事業の中に入っているのでしょうか。

事務局： 予算をつけていただいてありまして、岡谷田中小学校と神明小学校で留まっていたものを小学校4年生を対象にして、市内の全7校で行う形でこれから動いていきます。11日に校長会があるんですけども、そこで校長先生にお示しをしまして、日程調整に入っていきたいと思っております。

草間職務代理者： 岡谷独自の大変良い授業だと思いますので、是非、しっかりとやっていただきたいと思っております。

藤森委員： 生涯学習の関係で4つの重点ポイントと施策の4番目のところで、「親力、家庭力を向上する」生涯学習と挙げていらっしゃるということで、非常に重要なことだなと思っております。もう少し具体的に親力、家庭力を向上、家庭教育の充実というところで、どんな施策を今の時点でお考えいただいているのかお聞かせいただければと思っております。

事務局： 親力、家庭力を向上するというのは、これからの時代で考えると大きな課題かなあと思っております。色々な複雑な家庭がある中で、やはり親の方の原因という部分もあるのかなあと思っておりますので、子ども総合相談センターや地域の色々な団体との繋がりを深める中で、教育委員会として何が出来るのかということを考えていきたいと思っておりますが、行政だけでは、とても担えるものではないと思っております。やはり、地域だとか、学校だとか、家庭と連携しながらという部分では、まだ具体的な策として、これというのは掲げているんですが、まさにここは、これから大きな課題であると思っておりますので、是非お知恵をいただきながらみんなで考えていきたいと思っております。

藤森委員： 岡谷市のPTAの窓口は、教育総務課ですよ。これは、あくまでも意見ですけども、私もPTAの役員をやらさせていただいていたものですから、ちょっと感じている部分ですと、家庭教育だったり、親力、子どもと保護者の関わり方だとか、行政との連携を考えた時に、わりとPTAは生涯学習よりな気がしています。事務的な部分だと教育総務課が窓口だと思うんですが、例えば、PTAをどんな風にやったらいいのかなあと思っていた時に、生涯学習的な視点で、親が学んでいく、親力を高めていく場であった方がいいんじゃないかなあと思ったりするものですから、これはあくまでも意見なんですけども、そういった部分での生涯学習課との関わりというのも、今後の展開の中で少し検討していただければと、また、色々な切り口が出てくるんじゃないかなあと思っております。

事務局： 私が入所したころ、図書館で親業という講座を開いておりましたが、あの頃は、学校が荒れていまして、1つ原因として親の力ということで、講座を開いて、何回かやったんですが、2、3年続いて終わってしまったんですが、今あらためて、良い企画だったと言う方もいらっしゃいますし、行政がそこまでやる必要があるのかという批判をいただいた時代もあったんですが、今思うと継続した方がよかったのかなあと思っております。本当に貴重なご意見だと思っております。ありがとうございます。

太田委員： 先ほど、子ども総合相談センターと連携という話もありましたが、今年、子ども総合相談センターの取り組みで、家庭への支援を強化していきたいというお話もありましたが、何か具体的に今までと違ったアプローチや施策など、お考えがあるのでしょうか。

事務局： 昨年までは、家庭という部分は載せていなかったんですけども、実はこれまでもチーム体制として、専門カウンセラーですとかスクールソーシャルワーカーが入って、チームで対応して、家庭への関わりも出来ている部分がありますので、その辺を今後も引き続き対応していきたいということで、家庭という部分を新たに載せさせていただきました。今後も積極的に家庭への支援をチーム全体で対応していければと思っております。

小平委員： 普通に頑張っている親御さんでも、子育てに悩むことが多いので、先程の親業の講座というのも良いなあと思っていたんですけども、実際の現状として問題のある家庭というのはどんな感じの問題があるのでしょうか。

事務局： 様々ですけども、家庭の中で親御さんの経済的な状況、或いは親御さんの心の問題で、なかなか子どもに関わっていないところがあったりして、お子さんが学校に行けないというケースがあります。当然、ちょっと学校に馴染めなくて行けないというお子さんもいらっしゃるのですが、そういうところは心の教室の相談員が関わっていく中で、学校に馴染めるように支援をしていくという形ですが、様々で多様なケースが増えて、複雑になってきておりますので、なかなか解決に結び付かない1つの要因かなあと思っております。

小平委員： 先ほど草間職務代理者が、おっしゃっていたプログラミングの授業というのはどんな内容なんですか。

事務局： 市内にアトラス株式会社という企業があったんですけども、そこで信州大学と共同開発した多脚ロボットをパソコン上でプログラミングすることによって遠隔操作で動くというソフトを開発したので、是非、学校現場でそれを活用出来ないかというお話を統合前にいただきました。その時点では、小学校という現場の中では、そういうカリキュラムはなかったものですから、なかなか位置付けていくのは難しいし、お金も掛かることだったんですが、学校統合にあたって、岡谷市が文部科学省の指定を取ることが出来まして、3年間補助金をいただきながらやってまいりました。そのお金がついたので、実際に活動が出来るようになって、特にプログラミングという学習はなかったんですけども、総合的学習の時間に位置付けて、統合前でしたので、田中小学校と神明小学校と岡谷小学校で始めました。4年生で始めて、5年生、6年生という形で3年間かけてステップアップしてやり続けました。子ども達は、「岡谷にはこんな企業があって、こんな技術があって、こんなことが出来る素敵なまちなんだ」という郷土への誇りという部分にもものすごく繋がっていく学習で、教育委員さんにも見ていただいたり、色々な方に見ていただいたり、岡谷工業高校の先生方にも見ていただいて、岡谷工業高校の子ども達とも何か出来ないかなあと、今、連携を探っているところなんですけども、そういった形で3年間行ってきました。4、5、6年生の3学年分のカリキュラムをすべて構築してありますが、さすがに全部の学校に広げるにあたり、4、5、6年生の3学年は不可能なので、まずは全部の学校の4年生を対象に行うところからスタートしようという流れになっております。その中で文部科学省が新学習指導要領にこれからの時代の1つ核としてプログラミング教育というのを据えてきました。結果的に私達が最先端をいってございまして、岡谷市が最先端として非常に注目されております。

小平委員： 岡谷市内には面白い企業さんがいっぱいあるということなんですね。

事務局： それを是非、岡谷スタンダードカリキュラムの中でもたくさん紹介していますので、どんどん広げて紹介して、引き出しとしてもたくさん協力していただける企業を作って、学校現場へ還元して、産学官の連携した学びが広がっていくことを狙っています。

太田委員： スポーツ振興課の方で、「岡谷キッズ運動大好き事業」の体力アッププログラムなんですけども、昨年1度だけですけども拝見させていただきまして、非常に良い内容だなあと思っております。4年目ということなんですけど、実際に始めてからのどんな効果があったのかお分かりになっている部分があるのでしょうか。1年生なので評価が非常に難しい部分はあると思いますが、今後どんどん発展させていったりしていくのに、評価的なものがあると良いなあと思っておりますので、それをお聞かせいただきたいのと、それからもう1点は、今、1、2年生対象なんですけど、昨年拝見させていただいて思ったのが、ある程度理論とかが理解出来るような高学年の子ども達にやったら、実はもっと効果が出るんじゃないかなあということを感じました。最近体の動かし方なんか科学的になっていて、体幹なんていうこともすごく言われるようになって、以前我々がやっていた頃と全然違うなという風に思います。その時にある程度理屈を理解が出来て、「こうやって、こういった

ところをこういう形で使うところなるんだよ」ということを知ったうえで動かして、「ああ、そうなんだ」ということを感じられる年齢になると、もっと受け入れが良くなって、もっともって中身が生きてくるような気がすごくしたものですから、これは今後のことなんですが、もし上手いこと効果出るような運営が出来ていったら、高学年を対象に考えても良いんじゃないかなあと考えておりますので、お聞かせいただけたらと思います。

事務局：輝け岡谷キッズ体力アッププログラム事業は、現在、小学校1、2年生の体育の授業に専門指導員を派遣しまして、歩く、走る、跳ぶ、投げる、蹴るといった基礎的な動きを行っておりますけれども、市内の小学校の先生方にお話をお聞きしたところ、非常に良い内容であると聞いております。そういった中では、スポーツをやる子とやらない子の二極化を防ぐということが出来ますので、非常に良いのかなあと考えております。また、指導員が児童と直接関わることによって、他のスポーツ事業の方にも導くことが出来るということで非常に効果があるのではないかなあと考えております。運動の基礎というものは、しっかりと身に付けていかないと、運動が出来ないという思い込みにも繋がってしまいますので、スポーツ離れをなくすというところでも良いのではないかなあと考えております。現在、1、2年生で実施しておりますけれども、委員さんがおっしゃられたとおり、体の使い方を理論的に教えていくという部分も大事だと思っておりますので、また意見をいただきながら、今後、検討していきたいと思っております。

岩本教育長：子ども達にアンケートを行ったんですが、「運動が好きになった。」とか「体を動かすことが、こんなに楽しいと思わなかった。」とか、或いは先生達にもアンケートを行ったら、大半の先生が効果があると答えていまして、学校の現場では、非常に好意的な意見をいただいています。本当は、予算的な関係で見直しをするようになっていたんですが、そういった後押しがあって、今年継続をしていくということになりました。委員さんが言われるように本当は、高学年まで広げていくと「知・徳・体」というように体というのほうと大事だと思いますが、予算に限りがあるものから難しいところもありますけれども、何か生かせることがないかなあということも、また、みなさんと一緒になって考えていきたいなと思っております。

みなさんからももっともってご意見をいただきたいと思っておりますので、もう一度、何処かで議題にして、もう少し委員さんからご意見をいただくと共通理解が出来たり、私達もやっていく中で色々なアイデアが浮かんできそうな感じもしますので、また、取り上げてご意見をいただけるようにしていきたいなと思っております。そこで、1つ宿題ですが、生涯学習課の方に読書活動推進計画の策定というのがありますが、私は、学校教育の中でも読書活動というのは充実させる必要があるのではないかなあと考えております。それを文言として何処かに入れたいと思っておりますので、委員のみなさんにお知恵を貸していただきたいと思っております。やっぱり、文言に入れるのと入れないのでは大きな違いがあると思っておりますので、入れてみんなで意識をして、先程の親業とか家庭力の話が出ましたけれども、具体的なことが出ないということは、こういうところにあげておかないと中々意識に入ってきませんので、きちっと文言を入れる中で、みんなで知恵を出して何か具体案を考えていくという形でいきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

それでは、今日のところはこういう形で基本方針をそれぞれお示しをしていくということでよろしいでしょうか。

#### 【承認】

岩本教育長：さらにこれを基にしながら、より良いものにしていくという形になっていくのかなあと思いますが、ご意見ありがとうございました。それでは、次に議題2に入りたいと思っております。

#### 2. いじめ問題対策調査委員会委員の委嘱について（非公開）（教育総務課）

<いじめ問題対策調査委員会委員の委嘱について事務局より説明し、承認される。>

#### 3. 岡谷市スポーツ推進委員の委嘱について（非公開）（スポーツ振興課）

<岡谷市スポーツ推進委員の委嘱について事務局より説明し、承認される。>

岩本教育長： 次に報告事項に移りたいと思います。

## ○報 告

### 1. 平成30年度教育委員会事務局職員定期人事異動について (教育総務課)

岩本教育長： 報告事項1について事務局より説明をお願いします。

<事務局より平成30年度教育委員会事務局職員定期人事異動について説明。>

岩本教育長： 何かご質問、ご意見等がございますか。よろしいでしょうか。  
それでは、次にその他ということで、事務局からお願いします。

## ○その他

・行事等について (各課)

<各課より行事予定について説明>

・その他

岩本教育長： 続いて委員の中でご報告等あればお願いいたします。よろしいでしょうか。  
それでは、事務局より次回の開催予定についてお願いします。

<次回開催日の調整>

岩本教育長： それでは以上をもちまして、4月の定例教育委員会を終了とします。

終了16時15分

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

平成30年5月9日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

高木千奈美

署 名 委 員

藤森一俊

調 製 職 員

吉澤洋人